

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会(第119回)

# 「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すこと」の 意義及びその在り方について

---

2020年8月24日

筑波大学 人間系 教授 藤田晃之

# 「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すこと」の 意義とキャリア教育の役割

---

①

# 新学習指導要領を改めて読む

## ■前文(抄)

### 小学校

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

### 中学校

幼児期の教育及び小学校教育の基礎の上に、高等学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、生徒の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに中学校学習指導要領を定める。

### 高等学校

幼児期の教育及び義務教育の基礎の上に、高等学校卒業以降の教育や職業、生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、生徒の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに高等学校学習指導要領を定める。

## ■総則(抄)

### 小学校

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

### 中学校

(4) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

### 高等学校

(4) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

# TIMSS 2015が示すもの

## 【平均得点の推移】

		1995	1999	2003	2007	2011	2015
小学校4年生	算数	567点 (3位/26か国)	(調査実施せず)	 565点 (3位/25か国) <small>有意差なし</small>	 568点 (4位/36か国) <small>有意差なし</small>	 585点 (5位/50か国) <small>有意に上昇</small>	 593点 (5位/49か国) <small>有意に上昇</small>
	理科	553点 (2位/26か国)	(調査実施せず)	 543点 (3位/25か国) <small>有意に低下</small>	 548点 (4位/36か国) <small>有意差なし</small>	 559点 (4位/50か国) <small>有意に上昇</small>	 569点 (3位/47か国) <small>有意に上昇</small>
中学校2年生	数学	581点 (3位/41か国) <small>有意差なし</small>	 579点 (5位/38か国)	 570点 (5位/45か国) <small>有意に低下</small>	 570点 (5位/48か国) <small>有意差なし</small>	 570点 (5位/42か国) <small>有意差なし</small>	 586点 (5位/39か国) <small>有意に上昇</small>
	理科	554点 (3位/41か国) <small>有意差なし</small>	 550点 (4位/38か国)	 552点 (6位/45か国) <small>有意差なし</small>	 554点 (3位/48か国) <small>有意差なし</small>	 558点 (4位/42か国) <small>有意差なし</small>	 571点 (2位/39か国) <small>有意に上昇</small>

※各国・地域の得点は、1995年調査における基準値(500点(対象児童生徒の3分の2が400点から600点に入るよう標準化))からの変化を示す値である。

# TIMSS 2015が示すもの

## ■ 数学・理科の大切さや意義に関する意識 (中学2年生)

- 数学/理科を勉強すると日常生活に役立つ
- 他教科を勉強するために数学/理科が必要だ
- 自分が行きたい大学に入るために数学/理科で良い成績をとる必要がある
- 将来自分が望む仕事につくために数学/理科で良い成績をとる必要がある
- 数学/理科を使うことが含まれる職業につきたい
- 数学/理科の成績が良いことは大切だ

# 中学2年生 理科 (参加:39国・地域)

Exhibit 10.7: Students Value Science

Reported by Students

Students were scored according to their degree of agreement with nine statements on the *Students Value Science* scale. Students who **Strongly Value Science** had a score on the scale of at least 10.7, which corresponds to their "agreeing a lot" with five of the nine statements and "agreeing a little" with the other four, on average. Students who **Do Not Value Science** had a score no higher than 8.4, which corresponds to their "disagreeing a little" with five of the nine statements and "agreeing a little" with the other four, on average. All other students **Value Science**.

Country	Strongly Value Science		Value Science		Do Not Value Science		Average Scale Score	Difference in Average Scale Score from 2011	
	Percent of Students	Average Achievement	Percent of Students	Average Achievement	Percent of Students	Average Achievement			
Botswana (9)	73 (0.8)	423 (2.3)	23 (0.7)	332 (4.2)	4 (0.3)	292 (9.6)	11.6 (0.03)	0.2 (0.04)	○
Jordan	68 (0.9)	440 (3.2)	25 (0.8)	414 (4.4)	7 (0.5)	391 (7.3)	11.4 (0.04)	0.2 (0.06)	○
Egypt	65 (1.2)	392 (3.9)	29 (0.9)	347 (5.4)	6 (0.4)	334 (6.9)	11.3 (0.05)	0 0	
Oman	62 (1.0)	469 (2.7)	32 (0.9)	438 (3.5)	6 (0.4)	429 (5.7)	11.1 (0.04)	-0.1 (0.05)	
Morocco	59 (1.0)	402 (2.7)	33 (0.7)	387 (3.4)	8 (0.4)	389 (4.5)	11.0 (0.04)	--	
Lebanon	58 (1.3)	420 (5.0)	32 (1.1)	381 (6.4)	10 (0.7)	359 (9.2)	11.0 (0.05)	--	
Iran, Islamic Rep. of	57 (1.1)	465 (4.8)	32 (0.8)	446 (4.2)	10 (0.6)	446 (5.1)	10.9 (0.05)	0.4 (0.06)	○
South Africa (9)	57 (1.2)	366 (5.6)	31 (0.8)	344 (6.1)	12 (0.8)	383 (9.4)	10.8 (0.05)	0.1 (0.07)	
Kuwait	54 (1.1)	422 (5.8)	36 (1.0)	405 (6.1)	10 (0.6)	381 (7.8)	10.7 (0.04)	0 0	
Bahrain	52 (1.1)	485 (2.6)	34 (0.9)	457 (3.6)	14 (0.6)	435 (5.0)	10.6 (0.04)	0.4 (0.06)	○
Qatar	50 (1.0)	486 (3.8)	35 (0.9)	443 (3.6)	15 (0.5)	411 (4.7)	10.6 (0.04)	0.1 (0.07)	
Thailand	49 (1.2)	472 (4.6)	45 (1.1)	442 (4.2)	6 (0.4)	427 (7.2)	10.7 (0.04)	0.2 (0.06)	○
Saudi Arabia	49 (1.5)	411 (5.5)	36 (1.0)	391 (5.0)	15 (1.1)	381 (6.3)	10.5 (0.07)	0.0 (0.09)	
United Arab Emirates	48 (0.7)	504 (2.8)	39 (0.5)	460 (2.6)	13 (0.5)	438 (4.1)	10.5 (0.03)	0.1 (0.05)	
Turkey	46 (1.0)	505 (4.5)	40 (0.8)	485 (4.5)	14 (0.8)	485 (5.2)	10.4 (0.05)	0.4 (0.06)	○
Georgia	43 (1.2)	454 (3.7)	45 (1.1)	444 (4.0)	12 (0.8)	430 (6.8)	10.5 (0.05)	--	
Kazakhstan	41 (1.2)	546 (4.8)	49 (1.0)	525 (5.2)	10 (0.8)	527 (6.6)	10.5 (0.05)	--	
Israel	40 (1.1)	523 (4.6)	36 (0.7)	512 (4.4)	24 (1.0)	481 (4.9)	10.0 (0.06)	0.3 (0.08)	○
England	39 (1.1)	558 (4.1)	43 (0.8)	536 (3.9)	18 (0.9)	502 (4.5)	10.1 (0.05)	0.0 (0.07)	
United States	38 (0.8)	550 (3.2)	42 (0.7)	529 (2.8)	19 (0.6)	501 (3.1)	10.1 (0.03)	0.3 (0.05)	○
Malaysia	38 (1.0)	483 (3.4)	54 (0.8)	481 (4.3)	9 (0.8)	387 (8.9)	10.4 (0.04)	0.1 (0.08)	
Russian Federation	38 (1.4)	544 (5.2)	48 (1.2)	545 (4.1)	14 (0.6)	543 (5.9)	10.2 (0.05)	--	
Lithuania	38 (1.1)	525 (3.5)	47 (0.9)	517 (3.1)	15 (0.8)	515 (5.2)	10.2 (0.04)	--	
Singapore	37 (0.8)	621 (3.4)	53 (0.7)	589 (3.4)	10 (0.5)	548 (4.7)	10.2 (0.03)	0.1 (0.04)	
Malta	37 (0.7)	536 (2.9)	37 (0.8)	475 (2.8)	26 (0.7)	436 (3.6)	9.9 (0.03)	0 0	
Canada	37 (0.8)	546 (2.5)	44 (0.8)	525 (2.4)	19 (0.8)	501 (2.9)	10.1 (0.03)	0 0	
Chile	32 (1.1)	458 (4.3)	41 (0.9)	453 (3.6)	27 (0.8)	455 (3.4)	9.7 (0.05)	-0.2 (0.06)	○
New Zealand	30 (0.8)	537 (4.1)	46 (0.7)	514 (3.4)	24 (0.9)	486 (3.2)	9.7 (0.04)	0.5 (0.06)	○
Ireland	30 (0.9)	557 (3.4)	43 (0.8)	540 (3.0)	27 (1.0)	501 (3.8)	9.6 (0.05)	0 0	
Australia	27 (0.9)	547 (3.2)	41 (0.6)	517 (2.7)	32 (0.8)	482 (3.4)	9.4 (0.04)	0.3 (0.08)	○
Hong Kong SAR	24 (1.0)	565 (5.0)	46 (1.0)	549 (4.2)	31 (1.2)	528 (4.3)	9.4 (0.05)	-0.1 (0.07)	
Sweden	21 (1.0)	535 (5.7)	50 (0.9)	532 (3.7)	28 (1.3)	503 (3.8)	9.4 (0.05)	--	
Norway (9)	21 (0.9)	526 (4.4)	51 (0.8)	515 (3.1)	29 (0.9)	489 (3.4)	9.4 (0.04)	0 0	
Hungary	21 (0.9)	539 (6.8)	48 (0.8)	526 (3.4)	32 (1.1)	522 (3.5)	9.3 (0.04)	--	
Slovenia	20 (0.8)	577 (4.2)	52 (0.9)	556 (2.9)	28 (1.0)	525 (3.2)	9.3 (0.04)	--	
Italy	15 (0.7)	516 (4.5)	46 (1.1)	502 (2.9)	40 (1.1)	490 (3.3)	9.0 (0.04)	0.1 (0.05)	
Korea, Rep. of	13 (0.6)	605 (4.2)	51 (0.9)	566 (1.9)	36 (0.9)	522 (2.5)	9.0 (0.04)	0.1 (0.05)	
Chinese Taipei	11 (0.5)	616 (4.5)	38 (0.9)	589 (2.5)	51 (1.0)	546 (2.1)	8.6 (0.03)	0.1 (0.06)	
Japan	9 (0.5)	605 (3.6)	44 (0.8)	586 (2.0)	47 (0.9)	550 (2.3)	8.6 (0.03)	0.1 (0.05)	
International Avg.	40 (0.2)	506 (0.7)	41 (0.1)	482 (0.6)	19 (0.1)	460 (0.9)			

SOURCE: IEA's Trends in International Mathematics and Science Study - TIMSS 2015

強くそう思う  
国際平均値=40%

強くそう思う  
シンガポール=37%  
成績第1位

強くそう思う  
日本=9%【最下位】

# 総則が示すキャリア教育実践の在り方

## ■小学校 (第4 児童の発達の支援 1 児童の発達を支える指導の充実)

(3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

## ■中学校・高等学校

(中学校:第4 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)

(高等学校:第5款 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実)

(3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等(中)／各教科・科目等(高)の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方(中)／生徒が自己の在り方生き方(高)を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

# 学級活動・ホームルーム活動

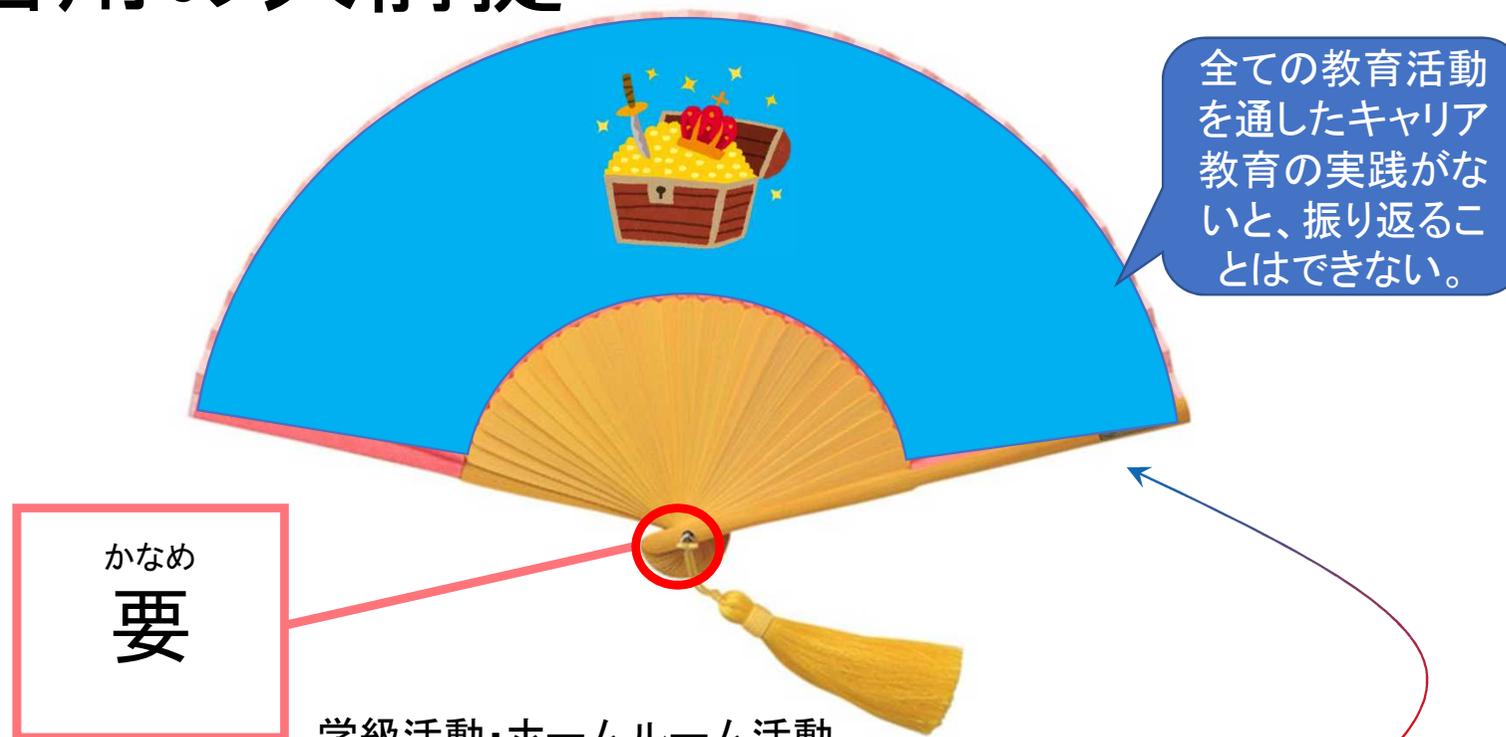
## ■小・中・高共通

- (1) 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

## ■内容の取扱い

(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材(=「キャリア・パスポート」)等を活用すること。

# 「要」活用の大前提



全ての教育活動を通したキャリア教育の実践がないと、振り返ることはできない。

かなめ  
要

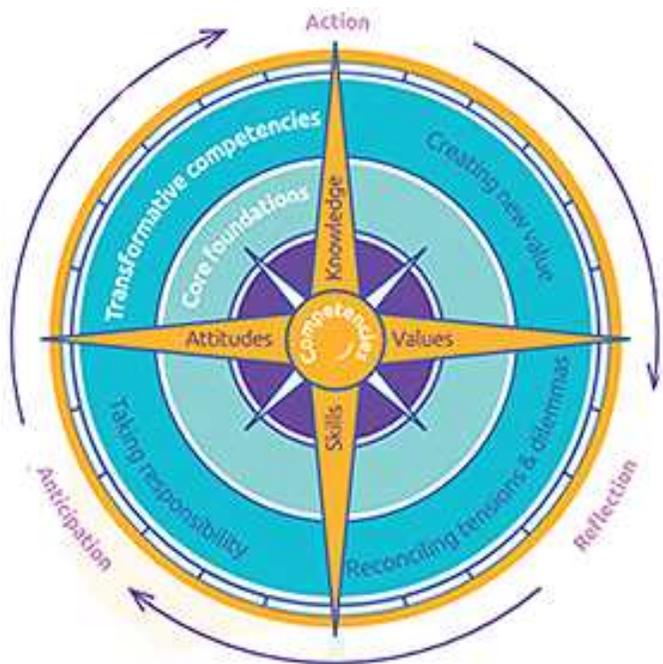
学級活動・ホームルーム活動

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

内容の取扱い

(3)の指導に当たっては、**学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら**、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材(=「キャリア・パスポート」)等を活用すること。

The OECD Learning Compass 2030 <http://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>



## ■ 学びの中核的な基盤

### 構成要素

= 知識 (Knowledge) / 技能 (Skills) / 態度と価値観 (Attitudes and Values)

具体的に基盤となるもの (Core Foundations)

= 読み書き能力などのリテラシー (cognitive foundations)

心身の健康管理をする力 (health foundations)

社会情動的スキルや倫理観・道徳観 (social and emotional foundations)

## ■ 自らの人生を築く上で必要な「目標を設定する力」

= 「生徒エージェンシー (Student Agency) 」 (羅針盤を使いこなすための力)

**変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力。**

働きかけられるというよりも自らが働きかけることであり、

型にはめ込まれるというよりも自ら型を作ることであり、

他人の判断や選択に左右されるというよりも責任を持った判断や選択を行うことを指す。

## ■ AARサイクル

**学習の見通し (Anticipation)**

行動 (実践 Action)

**振り返り (Reflection)**

AARサイクルを確立しつつ継続して  
学び、自らの考えを改善していく

## ■ 社会は自分たちの手でより良く変えることができると信じ、 未来を形成するために必要な力 (Transformative Competencies)

= 新たな価値を創造する力 (Creating new value)

対立やジレンマに対処する力 (Reconciling tensions and dilemmas)

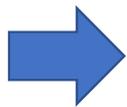
責任ある行動をとる力 (Taking responsibility)

# 【参考】「日本型雇用」の揺らぎ

## ■いわゆる「日本型雇用」の特質

(労働大臣官房政策調査部編(1991)『平成3年版産業労働レポート』大蔵省印刷局p.60より)

- ◆わが国では、「事務系」「技術系」「現業系」のように、職種ではなく大まかな「職群系」による労働者の分類はあるものの、基本的には、人は職務に固定していない。(中略)企業内の種々の職務に対応した労働力の確保は、企業内のOJTによる能力開発によって行われるのが通常であり、その重要な要素が配置転換である。



採用時に問われるのはtrainability(=「地あたま」の良さ)

高校受験(中学受験)も大学受験も首尾よく成功し、理系教科にも文系教科にも強い有名大学出身者は、ある程度安心して採用できる

## ■「日本型雇用」の揺らぎ

- ◆2019年5月13日 トヨタ自動車・豊田章男社長(日本自動車工業会会長)記者会見
  - 「雇用を続ける企業などへのインセンティブがもう少し出てこない、なかなか終身雇用を守っていくのは難しい局面に入ってきた」
- ◆2020年3月31日 「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」最終報告書
  - 2030年の企業は、ダイバーシティ経営が主流となっている。(中略)各企業は、「メンバーシップ型」のメリットを活かしながら自社の経営戦略にとって最適なかたちで「ジョブ型」を組み合わせた「自社型」の雇用システムを確立している。

# 「キャリア・パスポート」の重要性と指導の在り方

---

2

# 「キャリア・パスポート」とは

(文部科学省初等中等教育局児童生徒課「『キャリア・パスポート』の様式例と指導上の留意事項」2019(平成31)年3月29日より)

- 小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。
- 教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

# 「キャリア・パスポート」は“黒船来航”ではない

■ これまでも、「学びの振り返り」と「今後の見通し」のための実践は数多くなされてきた。

毎日の生活日誌の例

校時	教科	評価	内容・課題	授業・学級活動・生活のこと		
	朝読書					
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
メモ・持参物等				担任・副担任から		
放課後の計画						
4時 5時 6時 7時 8時 9時 10時 11時 12時						
家庭学習の時間			時間	分		
就寝時刻		時	分	起床時刻	時	分

予習・復習を行うためには毎日の授業を確認する。

日々の出来事や考えていることを日々書き留める。

放課後の時間を有効に使うために、毎日計画を立てる。

家庭学習時間や就寝時間、起床時間をしっかり決めておく。

今年の目標を漢字1字で



愛知県田原市立泉中学校  
2018/03/08  
<http://www.tahara-c.ed.jp/izumicyu-j/>

体験活動の振り返り

キャリアノートモデル 中学2年生

「トライやる・ウィーク」を終えて

平成 年 月 日 ( )

トライやる・ウィークの体験を終えて、思ったことや気付いたことを書き込みましょう。

■ トライやる・ウィークでの活動を振り返ろう

トライやる・ウィークで経験した活動場所は、

■ トライやる・ウィークで学ばれたこと(知りたかった)ことを書こう

■ 実際に社会体験を行って、感じたことや学んだことを書こう

■ 体験を通して、自分自身のこと新しく発見したり気付いたりしたことを書こう

評価項目	一冊ではまる			当てはまらない		
	4	3	2	1	0	1
自分から進んで体験できたか	4	3	2	1		
指導ボランティアの人をはじめ、地域の人々との交流がもてたか	4	3	2	1		
班の仲間との協力関係がもてたか	4	3	2	1		
目標をもって取り組めたか	4	3	2	1		
目標を達成するための努力ができたか	4	3	2	1		
目標は達成できたか	4	3	2	1		
保護者との会話は十分だったか	4	3	2	1		
自分の考えや行動に影響があったか	4	3	2	1		
将来の生き方の参考になったか	4	3	2	1		

■ 今後の生活に生かそうと思うことや大切にしていきたいことを書こう

将来の自分の生き方につながる経験ができたかな?

(大人からのメッセージ)

兵庫県中学校版  
キャリアノートモデルpp.14-15

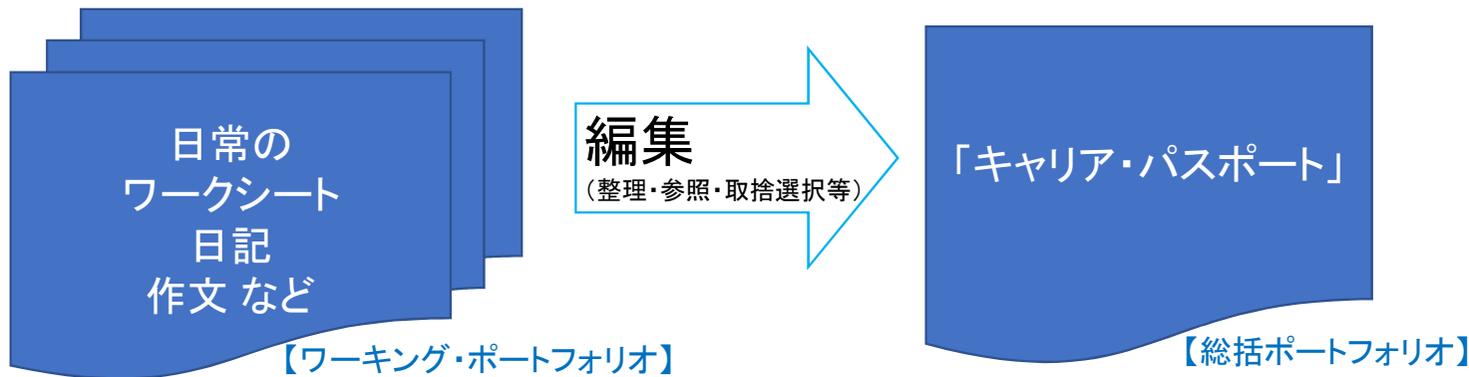
高知県西部教育事務所(2009)  
『家庭学習アイディアブック』p.15

# 「キャリア・パスポート」の姿

(文部科学省初等中等教育局児童生徒課『「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項』2019(平成31)年3月29日より)

## ■ 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見直し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする

- ◆ 児童生徒が記録する日常のワークシートや日記、手帳や作文は、「キャリア・パスポート」を作成する上での貴重な基礎資料となるが、それをそのまま蓄積することは不可能かつ効果的ではなく、基礎資料を基に学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見直しができる内容とすること。
- ◆ 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする(小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積する前提の内容とし、各シートはA4判(両面使用可)に統一し、各学年での蓄積は数ページ(5枚以内)とすること)。



# 不可欠な 教師による「対話的なかわり」

## ■「キャリア・パスポート」=自己理解を深め、自らのキャリアを形成するためのツール

- ◆ 作成と振り返りを通して、様々な学びや体験が教科等の枠を超えて自己のキャリア形成につながっていくことを自覚できるようになる。
- ◆ 自らがどのように成長してきたかを多面的・多角的に把握し、自己理解を深めることが能となる。

## ■このようなプロセスにおいては、「キャリア・パスポート」に教員が記載するコメントや、振り返り場面における教員の言葉がけが重要な役割を担う

- ◆ 児童生徒が自覚するまでに至っていない成長や変容に気づいたり、一人一人が自らの成長を肯定的に認識できるようにするためには、教師による対話的な関わりが極めて重要

## ■理論的な基盤

### ◆コクラン(L. Cochran)「ナラティブ・アプローチ」

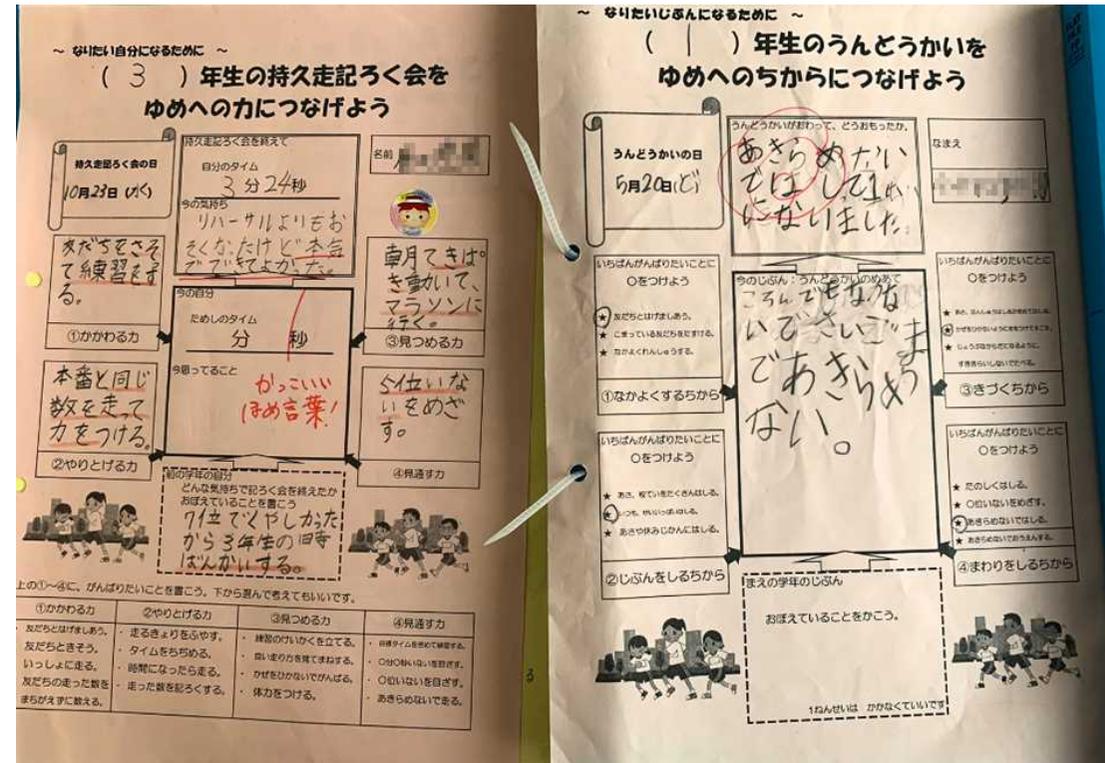
- 人は経験する様々な出来事を時間軸に沿ったストーリー(物語)として捉えており、その物語には、自らの価値観、物事の捉え方、将来展望などが反映されていると見なす。人は、自らの過去を綴るたびに経験を捉え直し、再構成する。支援者はそれを踏まえ、今後がその人にとっての「より良い物語」となるよう適切なアドバイスを提供する存在。

### ◆サビカス(M.L. Savickas)「キャリア構築理論」

- 自分自身の経験を振り返る過程において、他者との相互作用の中で自らのキャリアを創り上げていく存在として人間を捉える。

# 「紙中心」→「紙・デジタルのハイブリッド」→「デジタル」

- 小学校低学年・中学年までは「紙中心」
  - 手書き文字の劇的な変化
  - 文の構造の変化
  - 歴然とした成長の証
  - 先生方の手書きのコメントの価値
- 小学校高学年、中学校では「ハイブリッド」
  - スタディログなどの「ワーキングポートフォリオ」の一部はデジタル対応可能
- 中学校「技術・家庭」、あるいは高等学校「情報」において、それまでの蓄積をデジタルファイル化
  - それ以降、デジタル「キャリア・パスポート」として作成・蓄積・活用



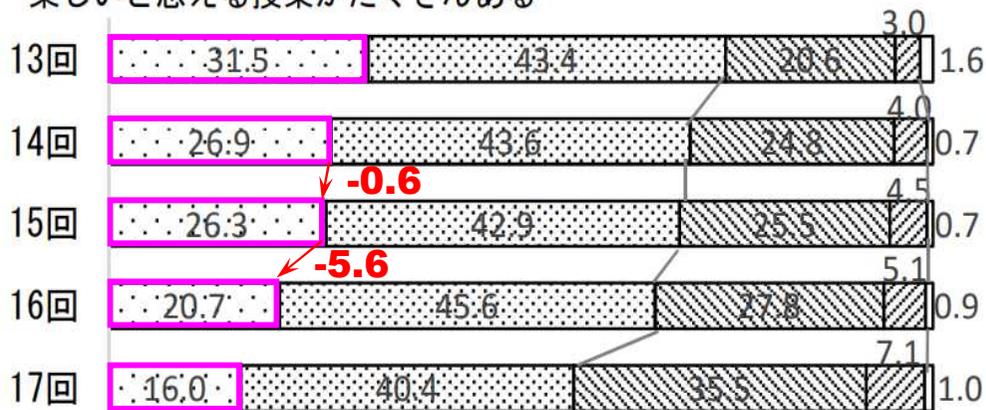
中学・高校間の「学びのつながり」をどうするか

---

3

# 第17回 21世紀出生児縦断調査(平成13年 出生児)の結果より

楽しいと思える授業がたくさんある

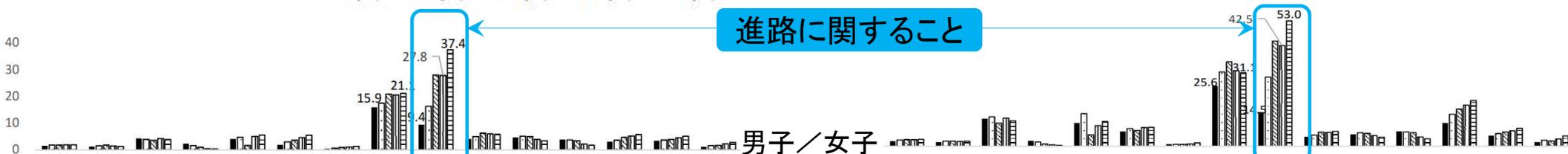


授業の内容をよく理解できている



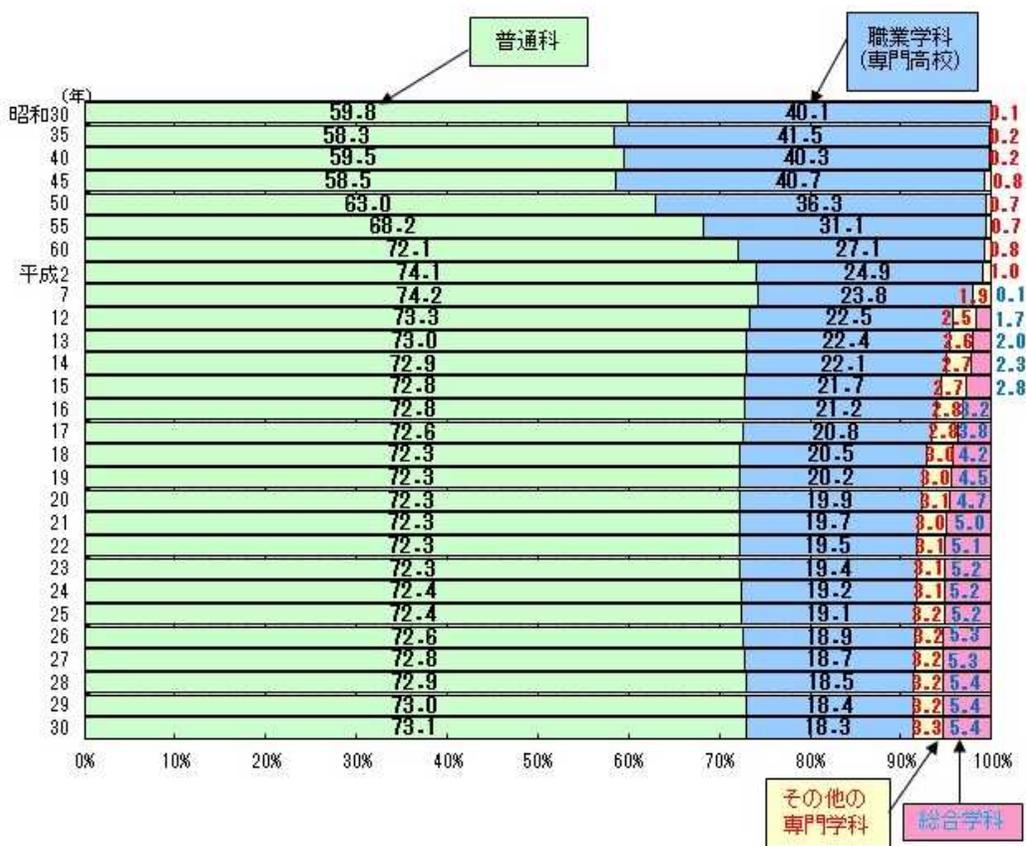
とてもそう思う     まあそう思う  
 あまりそう思わない     まったくそう思わない  
 不詳

※悩みや不安の変化 ■13回 □14回 ▨15回 □16回 □17回



# 高等学校・普通科における教育内容をどうするか

高等学校学科別生徒数の構成の推移



[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/shinkou/genjyo/021201.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/genjyo/021201.htm)

中央教育審議会 初等中等教育分科会  
 新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会(第11回)  
 令和2年7月17日

資料3-1 新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ報告資料(概要)より

高校生の約7割が在籍する普通科においても、一斉的・画一的な学びではなく、生徒の能力や興味・関心等を踏まえた学びを提供するという観点から、各学校の特色・魅力化の取組に応じて、「普通教科を主とする学科」として普通科のほかに、下記のような学科を設置者の判断によって設置することを可能化。

- SDGsの実現やSociety.5.0における現代的な諸課題への対応を図るために、学際科学的な学びに重点的に取り組む学科
  - …現代的な諸課題等に対応した領域横断的な教育を系統的に実施することや、高等教育機関や国際機関等との協働体制の構築を要件化
- 地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む学科
  - …地域課題等をテーマとした探究的な学びを3年間系統的に実施することや、地元自治体・企業等とコンソーシアムを構築すること、高校と地域を繋ぐコーディネーターを配置することなどを要件化
- その他普通教育として求められる教育内容であって特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科

[https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt\\_syoto02-000008827\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_syoto02-000008827_4.pdf)

# 高等学校・普通科における教育内容をどうするか

## ■「ハイパー職業教育主義」という陥穽

### ◆ グラブ (W. N. Grubb) と ラザーソン (M. Lazerson) による指摘

#### ● 「職業教育主義 (Vocationalism)」

教育システムの目的が就業準備に支配される状態

an educational system whose purposes are dominated by preparation for occupational roles

#### ● 「ハイパー職業教育主義 (HyperVoc)」

特定の狭い職業技能のみが重要視され、限定された技能で実行可能なように多くの仕事が定型化され、芸術や人文科学のような無益な科目が(教育機関から)排除された世界。雇用者側は生産目的に合致した特定技能のみを求め、教育機関には雇用者側から出された要求に合わせた雇用準備を提供することだけが期待される。

This is a world where narrow work skills are all that matter, a great deal of work has been routinized so that it can be carried out with limited skills, and nonutilitarian subjects such as the arts and the humanities have been eliminated. Employers seek specific skills narrowly tailored to their production, and educational institutions are limited to providing preparation for employer-specific hiring.

出典: W. Norton Grubb and Marvin Lazerson (2005) The Education Gospel and the Role of Vocationalism in American Education, *American Journal of Education*, Vol. 111, No. 3, pp. 297-319

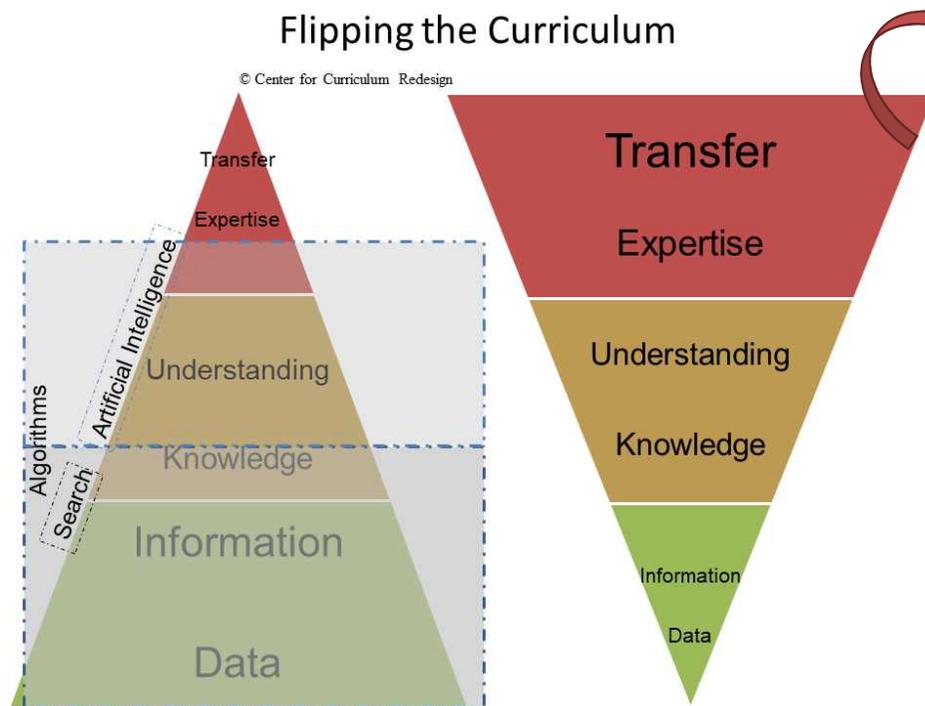
# 高等学校・普通科における教育内容をどうするか

## ■大切にしたい「なるほど、今の学びは未来につながっている」という実感 ー学習のレリバンズ、学びのオーナーシップー

### ◆高校教育指導者サミット(High School Leadership Summit)における連邦教育省長官のスピーチ(2003年10月8日)

- 少数の恵まれた生徒たちにとって、我が国の教育は世界一の水準を誇っています。中等教育後の教育機会、安定した経済状況、職業からの報酬、個人としての自由、これら全てに学校教育が道を開いています。
- しかし、その他の生徒たちにとって、教育制度は期待されるレベルに達していません。通学はしていても、教育を受けてはいないのです(Students come to school, but do not become educated.)。(中略)
- 私たちは、落ちこぼされている生徒たちの現実に目を閉ざし続けていることはできません。今日、生徒たちが就くべき職業は、彼らに対して、かつてないほどに高いレベルの読解力、コミュニケーション力、数学的知識・技能、問題解決能力を求めています。(中略)
- (社会人としての)準備ができていない者たちは、道ばた(sidelines)に座り、貧困にあえぎ、将来的な発展のない仕事(dead-end jobs)に就き、失望の中に生きることになるでしょう。十分に教育を受けた者が自らの選択による生活を手に入れていく傍らで、そうでない者はその陰を放浪する(wander in the shadows)ことになるのです。

# 学びの価値のメタ認知の必要性



## Society5.0 を生き抜くための力

- 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- 科学的に思考・吟味し活用する力
- 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力
- 一人一人が能動的に学ぶ姿勢など

||

社会に開かれた教育課程の中で、学びの価値をメタ認知しつつ(させつつ)育む

- 地域企業
- 大学・短期大学
- 行政機関
- 研究機関

などとの連携・協力



- 「ハイパー職業教育主義」を排した上での新たな普通科の構築
- 鍵となるSTEAM教育(各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育)

出典:  CENTER FOR CURRICULUM REDESIGN <https://curriculumredesign.org/>

# 「わからない」「できない」という疎外感を低減し得る 中高接続の仕組みの導入も検討の余地がある

## ■アメリカ・オクラホマ州Moore学区における高校数学の事例

<https://www.mooreschools.com/Page/583>

### ◆高校卒業要件(数学に関する要件)

- 州共通・大学進学対応卒業要件
  - ✓ Algebra1あるいはそれ以上の水準の科目について3単位(1単位=1年間通年履修)
- 州共通・一般卒業要件
  - ✓ Algebra1あるいは相当する科目について1単位、Algebra1と同水準かそれ以上の水準の科目について2単位

### 【履修例】

中学 (middle schools)			高校 (high schools)			
6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	11年生	12年生
Math 6	Algebra I	Pre-AP Geometry	Pre-AP Algebra II	Pre-AP Math Analysis	AP Calculus AB*	AP Calculus CD*
	Math 7	Algebra I	Geometry	Algebra II	Math Analysis	AP Calculus AB*
		Math 8 (Pre-Algebra)	Algebra I	Geometry	Algebra II	—
			Algebra I Enrichment** 及び Algebra I	Geometry Enrichment** 及び Geometry	Intermediate Algebra	—

註: \* = 大学入学後、当該大学の単位としても認定される(ダブル・クレジット)、\*\* = 数学の単位としては認定されないICTを活用した個別学習支援科目

# 個別最適な学びと「キャリア・パスポート」

## ■ 個別最適な学び(個別最適化された学び)

### 1. 学習速度の調整を図る

◆ 学習状況に応じて、学年や学校段階を超えて先の学年・学校の内容を学習したり、学び直しにより基礎の定着を図ったりすることなど

- 一元的な尺度に基づいて評価される傾向
- 教育活動の過度のパッケージ化の危険性

◆ 修得主義との結びつき

- 学年別の学級編制、集団での学び・協働的な学び合いとの調和をどう図るか？
- 個々の児童生徒の到達度の差(いわゆる学力格差)が顕在化しかねない

### 2. 児童生徒自身が探究の方法等を選ぶことで学びを最適化していく

◆ 「わからない」「できない」ことの辛さに耐える学校生活からの脱却

- ハル(D.Hull)「文脈学習」
  - ✓ 人は、学習対象と「自分の世界」との何らかのつながり(文脈[コンテキスト])を常に探そうとする。そして、そのつながりが見出されたときにのみ学びが成立する。
- キャリア・パスポートの出番
  - ✓ 「スタディログによる振り返り」+ 「実社会・将来との結びつきの見通し」
  - ✓ 「そうか、だから学ぶのか!」という発見・驚きの提供による学びの加速化

# 進む個性化・個別化の流れの中で必要なこと

## ■前提となるキャリア教育の充実

- ◆児童/生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科(各教科・科目)等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。(新学習指導要領・総則 [再掲])

## ■同時に不可欠なカリキュラム・マネジメントの徹底

- ◆育成を目指す資質・能力の明確化を等閑視した地域等との連携は危うい
  - 高校生がそこに居るだけで、高校生が関わるだけで、高校生が発信するだけで、多くの人は目を細める
- ◆高校段階の各教科における学びと往還し得る(学びを高め得る)水準の保持
- ◆関わる大人の本気度が不可欠
  - 費やしたエフォートは最終的に地域に還元される

ご清聴ありがとうございました

---

筑波大学 藤田晃之